P LOVE GREEN

未来につなぐ森づくりプロジェクト

P LOVE GREEN ～未来につなぐ森づくりプログラム～ は、株式会社プロントコーポレーションと日本環境教育フォーラムの協業プロジェクトです。日本全国の森づくりをプロントコーポレーションの社員のみなさまと共に進めていくため、２０２４年度より始動しました。

食事の選択が、森づくりにつながる！

皆さんは、外食時のメニューをどのように決めていますか？美味しい食事を楽しむだけで、私たちの暮らす地球の自然が豊かになるメニューがあったらいいなと思いませんか。実は、実際にそのようなメニューを開発し、環境活動に取り組まれている企業があります。飲食事業を全国に展開する株式会社プロントコーポレーションでは、サステナビリティ推進活動として「P LOVE GREEN」プロジェクトを２０１０年から展開されています。このプロジェクトは、”日本にもっとGreenを“という想いのもと、産地や製法にこだわった素材を使用したオリジナルメニューを「P LOVE GREEN メニュー」として販売し、その売上の一部を、森林循環を守るための「植える・育てる・使う」緑化活動へ役立てるというものです。

２０２４年９月より、その寄付先団体としてＪＥＥＦを新たに迎え入れていただき、両者の理念が共鳴するかたちで「P LOVE GREEN ～未来につなぐ森づくりプロジェクト～」がスタートしました。ＪＥＥＦは長年にわたり国内外で環境教育の推進に尽力しており、本プロジェクトでは「森の価値」や「自然とのつながり」を多くの人々に体感してもらうため、教育的視点を取り入れた森づくり活動を株式会社プロントコーポレーションの皆さまと共に全国各地で展開していく予定です。

上：初めての伐採体験！親子で力を合わせて挑戦中です。

下：スタッフの指導の下、安全に気を付けながら木を丁度良いサイズにカットしていきます。

自然と心が結びつく体験

第一弾の取り組みとして、２０２４年11月に東京都町田市の三輪緑地にて、里山の森林保全活動が行われました。活動はＮＰＯ法人樹木・環境ネットワーク協会の専門スタッフによる指導のもとで実施され、プロントコーポレーションの社員とそのご家族あわせて19名が参加しました。当日は天候にも恵まれ、和やかな雰囲気の中、参加者は実際に森に入り、間伐作業や薪割りを体験しました。普段の業務とは全く異なる自然の中での作業に、多くの社員が新鮮な驚きと充実感を感じられた様子でした。

特に印象的だったのは、社長を含む経営陣も現場に足を運び、社員と一緒に汗を流して活動に取り組まれたことです。このように、役員と社員がともに現場で環境と向き合う姿勢は、企業文化としての環境意識を育む上で非常に重要な意味を持ちます。また、子ども連れでの参加も多く見られ、家族単位で自然とふれあい、次世代への環境意識のバトンを渡す貴重な時間にもなりました。

社長の一刀入魂

こうした取り組みは企業にとっての社会的責任（ＣＳＲ）のみにとどまらず、社員のエンゲージメントの向上や地域とのつながりの強化にも寄与しています。実際に活動に参加した社員からは、「自然の中で身体を動かすことで心身ともにリフレッシュできた」「会社の取り組みが実際に社会に役立っていると実感できた」といった声が寄せられ、企業活動に対する誇りやモチベーションにもつながっています。

小さな愛が、緑を育てる。

今後もこの「P LOVE GREEN ～未来につなぐ森づくりプロジェクト～」では、各地域の自然や文化の特色に合わせた森づくり活動を継続的に実施していく予定です。森林保全に加え、環境教育の要素も取り入れたプログラム展開を通じて、子どもから大人までが自然とふれあいながら「自然を守ることの意味」や「持続可能な暮らし」について考えるきっかけを提供してまいります。読者の皆さまもプロントコーポレーションの飲食店舗に足を運ばれる際には、是非「P LOVE GREEN」マークのついた商品を探してみてください。お一人お一人が紡いでくださった愛を、全国の森に届けていきたいと思います。

小池 涼子
（こいけ りょうこ）

1990年新潟県生まれ。民間企業で外国人のビザ手配業務に従事した後、フィリピンの子ども達の自立支援を行うNGOにて勤務。子ども達の未来である地球を守りたいという想いから2024年7月にJEEFへ入職。海外事業グループに所属し、国際事業や企業案件を担当。

自然のプロから生きものや自然の魅力を学ぶ！
次世代ネイチャースクール

特別協力：公益財団法人 上廣倫理財団

公益財団法人上廣倫理財団は、1987 年設立の教育財団で、オックスフォード大学、国内の東大、京大、東北大などに広義の倫理研究の寄附講座を置いています。2023 年 12 月には、ハワイ大学に上廣海洋学研究センターを開設しています。

地球温暖化や海洋プラスチック問題などの環境問題は、この数十年で広がり続けています。しかし、本来わたしたちの暮らす地球は不思議でおもしろい自然にあふれています。「次世代ネイチャースクール」は、そのような自然や生きものの魅力にふれることで、子どもたちが好奇心を育み、自ら疑問を見つけ、地球の未来について考えるきっかけとなる学びの場です。

わたしたちの暮らしと生きもののつながりを学ぶ

子どもたちが生きものをきっかけに自然や環境に興味を持ち、大切にしたいという気持ちを育むことをねらいとして、オンラインプログラムと2泊3日の自然体験を実施。全国の小学4～6年生が集い、オンラインでは約70名、対面では23名が参加しました。

海岸はお宝だらけ！何の生きものの殻だろう？ みんなでじっくり観察しました。

オンラインで出会う、不思議で面白い生きものたち！

2024年8月のオンラインプログラム第1回『沖縄のサンゴ礁で出会うユニークな生きものたち』では、鹿谷麻夕さん（※1）を講師に迎え、沖縄ならではの海の生きものや、多様な生態系を支えるサンゴ礁や干潟などの自然環境について学びました。サンゴの白化現象について知った子どもたちからは「100年後の海を守りたい！」「生きろサンゴ！」と、心のこもったメッセージが寄せられました。

9月に実施した第2回『のぞいてみよう、一生懸命生きている！ 虫の世界』では、小野比呂志さん（※2）から、様々な虫の生態についてクイズを交えて楽しく学びました。虫は生態系のピラミッドを支え、すべての生きものの命のカギを握っていると聴き、「どんな小さな虫も自然を守るために必要な存在だと知った」と感想が寄せられました。

どちらの回でも、様々な生きものの「生きる工夫」が自然の多様性から生まれていること、そして、その自然が失われつつある現実にふれました。現状を悲観的にとらえるのではなく、自分にできることを探して前向きに未来をつくっていこうという姿勢を伝えました。

思い思いのイラストでいっぱいになった「生きものマップ」

海と山のつながりを体感した2泊3日

11月に開催した宿泊プログラムでは千葉自然学校の協力のも

※1 しかたに自然案内 代表

※2 環境省田貫湖ふれあい自然塾 チーフインタープリター、NPO 法人ホールアース自然学校 理事

沖ノ島の海岸が教室に。再生活動をしている海を背景にアマモのお話を聞きました。

慣れない山の急斜面を、転ばないように集中して一歩ずつ進みます。

と、千葉県南房総市を舞台に海と山の生きものとの出会いを満喫しました。

初日は、大房岬自然公園をじっくり散策。サワガニやカラスウリなど都会では見られない自然に触れて、五感をフル活用して楽しみました。なかでも印象的だったのは、1cmにも満たない小さなヤドカリ。沖縄から海流に乗って流れ着いたこのヤドカリは、近年の地球温暖化により南房総でも見られるようになっているそう。環境問題が与える生態系への影響を、目の前の生きものを通して実感することができました。

2日目は無人島『沖ノ島』を訪問。アマモの再生活動のお話を聞いたり、磯の生きもの観察をしました。この日の海岸には漂着した大量の竹が！ 山から川を伝って流れてきたものだと知り、海と山のつながりを感じました。

その後は館山市の里山へ。築300年の古民家『ヤマナハウス』を拠点に、猟師の方からお話を聞きました。イノシシによる農作物被害など、里山に暮らす人の減少によって起きている問題があると学びました。

昼食では、初めて食べたイノシシ肉のハンバーグの美味しさにみんな感動！ 一方で、見学中にイノシシをかける罠の実物を見た子は、「罠にかかるのは苦しそうだなと思ったのに、イノシシはすごく美味しくてどうしようと思った。だから今まで以上に食べ物に感謝して食べようと思った」と、葛藤した様子でした。

最終日には、森・里・川・海の大きな地図にそれぞれの場所で出会った生きものを描いて「生きものマップ」をつくりました。最後には「この自然とどうやって関わっていきたい？」と問いかけ、自分のイラストを地図の上に配置。子どもたち一人ひとりと自然とのつながりが一つの地図に描かれました。

参加者の声

子どもたちからは、「色々な生きものとふれあえて楽しかった」「本で学んだ知識を実際の自然の中で体験できて面白かった」といった声が多数ありました。さらに「自然は人間も含めてつながっていることを知った」「環境問題を解決したいと考えるだけでは越えられない壁があることに気づいた。実際に自然を体験して、何か少しでも行動にうつすのが重要だ」といった気づきも得られたようでした。

保護者からも「普段の家族旅行ではなかなか学びにつなげられないので、こうした時間は想像以上にとてもかけがえのないものだった」といった温かい言葉をいただきました。

2025年度の募集は6月下旬からスタートします。皆さんのご応募をお待ちしています！

東村 ほのか
（ひがしむら ほのか）
2024年4月入職。自主・企業事業グループ職員として国内事業やデザイン制作を担当。造形ワークショップやデザイン、美術教育を専門とし、アート（造形）を活かした体験の場づくりを行う。誰もが幸せに暮らせる未来に向けて、環境教育で何ができるのか日々考え中。

次世代ネイチャースクール 2025 ウェブページ
https://www.jeef.or.jp/activities/jisedai_ns2025/